



414
A1755

十年一月十九日

得能紙幣局長

大正十一年四月
大隈信壽郎 贈



輔

大書記官

出納局長

改造紙幣

聖上御真影御寫鐫刻仕度義旨伺

紙幣改装大文換着手之義去明治九年七月
中お伺り交回八月伺之通にお事可お承尔来
紙幣局長に於て改造之方法あり補ありて之段
取崩出有之紙幣局長に於て之通中
出有之紙幣局長に於て之通中
方法十分お立奸候之旨良し会う杜絶候之義行



要らるる紙に字其稿入るる義ハ外紙陳述する如く
是以緊要之眼目ト認存する所也懼る所身を
以有持るる法詮議り紙幣而長法願之通
聖上法真影を寫稿入るる義法可也其度仍而
別紙を添此を如何也

年月日

大藏卿大隈重信

大政大臣三條實美殿

紙幣改造方法之義ニ付

新紙幣之儀ハ外國良工之手ニ成り彩紋ノ緻
密等ニ於テハ微妙ヲ極メ其長短ヲ多量ナル不
ノモノ少ク其必要繁害ヲ承スヘクト豫テ其苦
在存紙幣交換之條備札製造して外國人

等備入畫ノ器在り要今日漸ク其目的ヲ達ス
彫刻製内刷中抄紙調を等々之技術其結
就キ且工場諸規則等支々之を以實際紙幣
製造及至其描寫等々之架造ニお生るる紙幣
改造大交換者多し其正院上何漏れ其外
爲ト新紙幣之便吾得失ヲ詳的論議法
且條を構集法主ハ外國紙幣ホ其考
復法之條防之方法ヲ設テ其記之通一製造法
可調其長短等造條防之第一トスル要法ハ字
彫刻ニ勝ルモノ多し故ハ外國之紙幣ハ多ク
其之寫真ヲ稿入るる法佳彫刻教海キヨ
ソ子分ハ其法之通一其法其考此際其用
改造其考其法之要法其考其造條防

之法十分難有之此上る廢造し弊は是るに及
造るに法多しとるに又紙幣に信用を失はば
不才なるも何れも其弊を去るに法あり
取上法を新造官邸職仕人民等々亦
副へしメ蓋して廢造を豫防せしむるに
法洞室を成特別に法治儀を以て法
格正院の上申一を中夜固るに法
雛形そのお添此の如何也

年月日

紙幣一馬長澤徳良介

大藏卿大隈重信殿

紙

一紙質ハ布屑ノ機械漉ナルヲ以テ其質脆弱ニシテ
久ニ耐ヘ難ク發行期年ニ至ラサルニ毀損甚ク多
ク行用不便ニメ最モ廢造ニ便ナリ

紙質ハ本邦固有ノ特殊美良ナル元質ヲ撰ミ
手漉術ヲ以テ水紋暗章ヲ施シ適度ノ薄品ニ
抄造シ其紙力ヲ堅韌ニシ毀損ノ憂ナク公キ
ニ耐ヘシメ以テ廢造ヲ防キ行用ニ便ナラシ
ム

一 百圓ノ五十圓ニ、十圓ノ五圓、二圓ノ一圓、五十錢ノ
十錢十錢ニ於ケル各其寸法ヲ同クスルヲ以テ描
改ノ弊アリ

各種其寸法ヲ異ニシ以テ種類ノ區別ヲ判然

タラシメ描改ノ憂ヲ絶ツ

一尋常ノ截法ナルヲ以テ一齊ナラス

一殊ノ截法ヲ以テ各種其方ヲ異ニシ符合ヲ

設ケ三方ヲ截斷シ一方ヲ記録頭割印ノ地位

ト為ス

版

一各種ノ畫紋相同キヲ以テ補改ノ弊アリ

一毎種其畫紋ヲ異ニシ描改ヲ防キ種類ノ區別

ヲ判然タラシムヘシ

一地紋緻密ニ過クルヲ以テ肉眼ニ辨知シ難ク却テ

贋造ノ欺罔ヲ受フルノ弊アリ

各國楮幣ノ體裁ヲ取舍シ其緻密ト微妙ハ表

面ニ於テ盡クニ裡面ハ唯適宜ノ細紋ヲ凹形

或ハ方形等ニ裝飾シ中央球形中ニ一種ノ機

械ヲ以テ大藏省ノ文字ヲ彫刻シ務メテ餘白

ヲ多クシ紙質ノ真贋鑒定ニ便ナラシムヘシ

一金員位置ノ文字簡略ニメ小ニ過キ且白字ナルヲ

以テ金員ノ多少ヲ明知セシムルノ功薄ク塗抹描

改ノ弊アリ

金員位置ノ文字ハ黒字ヲ以テシ大書シ字付

ヲ著明ニメ以テ塗抹描改ノ弊ヲ防キ又四隅

ニ金員ノ數字ヲ置キ調査ノ便ヲ與フ

彫刻

一原改ハ唯一種ノ機械ヲ以テ製造シタリ故ニ贋造ニ便ナリ

原改ハ二種ノ機械ト數工ノ伎倆ヲ以テ製造

シ以テ暗章秘點ヲ鑄填シ其人ニ非サレハ得

テ換鑄シ能ハサラシハ

一十銭ヨリ百回ニ至ル九種ノ地紋ハ各相異ナルモ
第一標目トスル金員ヲ印刷スヘキ表面黒色ノ畫
數ハ何レモ同紋ニシテ僅ニ四種ノ原收ヨリ成立
ツル即チ百回ト五十回ト二十回ト五回ト一回ト畫回
五十枚ト二十枚十枚ヨリ成法者ニハ一種ノ原收
ナルヲ鑄換シナリ故ニ唯目撃スル處ハ美ナレ氏實際
製造方ニ於テハ甚々粗ナリ

畫紋地換様ハ各種具體裁ヲ異ニシ一種毎ニ

一種ノ原收ヲ製造シ以テ精良ヲ尽スヘシ
肉

一刷内ノ質堅牢ナラス普通ノ藥汁ニ浸スレ僅ニ三
時間ヲ經サルモ色ヲ変シ或ハ消滅ス

今製造シタル刷内ノ堅牢ナル普通ノ藥汁ニ
浸スレ四十八時間ナレ氏其色ヲ變セ又消
滅セサル者ヲ用ユ

一各種其色ヲ異ニスルモ相近似スルヲ以テ日光ニ
ハ能クシテ辨別シ得ヘレト虫モ燈火ニハ辨別シ
難キモノアリ故ニ金員描改ノ弊アリ

各種其色彩ヲ異ニシ相近似セサル者ヲ用ヒ
以テ描改ノ弊ヲ防クヘシ

一一種ノ色彩ヲ各種ノ表裡ニ互用ス故ニ人目ヲ迷
サシルルノ弊アリ

表面地紋ノ色彩ハ各種其色ヲ異ニシ其種類
ヲ辨知シ易カラシメ裏面ハ各種同色ヲ用ユ
一押印内ハ堅牢ヲ主トシテ精製シ先札ニ用ヒタリト

虫モ普通ノ藥汁ニ五六時間浸入スレハ或ハ消滅
スルノ患アルヲ免カレヌ

アチセルノ時ニ察明セシ種々ノ化藥上ヨ
リ轉變シテ成ル処ノ安全因ニシテ押印ノ後
之ニ一ノ藥汁ヲ抹スレハ忽然其色ヲ變化レ真
贋検査ノ便ヲ得ル要法ヲ存レ又別ニ着色カ
堅固ノ工夫ヲ按レ此強質ヲ含有セシメタル
ヲ用フ

雜件

一番記号ノ位置宜シキヲ得ヌ故ニ之ヲ數ニ分裂ス
レハ照會ノ術ヲ失ヒ其功全ク欠ケリ
記号ノ位置ヲシテ天地及對セシメ縦横ニ分
裂スルモ照會ノ便ヲ失フノ弊ナカラシムヘシ

印刷

一表上摸録ハ刷版ヲ用ヒ表裡地紋ハ壓版ヲ用ヒテ
印刷スルヲ
一表裡合シテ三回刷ニスルヲ

今般大日本帝國通用ノ紙幣ヲ改造スル目途ニ於テ
貴命ヲ奉シ紙幣ノ雛形ヲ製シ高覽ニ供シ併セテ右
雛形ヲ説明スル為メ一二言ヲ開申ス

凡金銀証券類ハ專ラ贋造シ難キヲ旨トシテ製造ス
ル者ナリ故ニ其品ハ最モ緻密ヲ要ス緻密トハ何ソ
即チ製造ノ時間ト財本トヲ要シ且ツ機械運用ノ美
良ナル業ナリ加之技術ヲ要用トス如何トナレハ技
術ヲ尽シエヲ究メテ全像或ハ半身像ヲ彫鑄シ置ク
キハ仮令其原版ヲ製造セシ地位ノ技術者ト雖モ機
械等ノ完備スルニ非サレハ充分ナル贋造ヲ為シ得
ヘカラサルヲ証スヘシ

且ツ此雛形ヲ製スルニ於テモ製造ノ都合ヲ罔リ第
一ニ述タル緻密ハ今帝國工場ニ設置セル機械ヲ運

用レテ之ヲ造リ第ニニ論レタル畫像ハ
天皇陛下ノ聖像ヲ彫鑿スルノ免許アラニテヲ祈望
ス故ニ雛形ニハ只餘白ヲ存レ置ケリ各國ニ於テモ
其國帝ノ畫像ヲ彫刻シ人民尊敬ノ意ヲ副ルテアリ
是レ至當ノ理ニメ予ニ於テモ最モ祈望スル処ナリ
以上畫像彫刻ノ項ニ就キ愚見ヲ陳述ス夫レ後令繳
容ト雖モ模様ノミニニテハ贋造ヲ防キ難シ其例タル
日本帝國ニモアリ又他國ニモ最モ多シ故ニ模様ノ
ミニニテハ贋造者勉勵ノカヲ以テスル片ハ稍通常技
術者ノ如ク贋造スルヲ得ヘシ甚可憂ノ事ナリ仍テ
益信ス良善ナル技術ヲ用ヒ畫像ヲ彫鑿スヘキテ最
肝要ナルヲ

右雛形及ヒ前陳ノ見込ニ於テ予ハ充分ノ満足ヲ得
ル故ニ閣下ニ於テモ亦満足アラニテヲ祈望ス
敬具

エ、キヨソ子

紙幣局長閣下

紙幣ノ雛形ヲ製造セルニ際シ愚考ノ件々記臆ノ為
メ左ニ陳述ス

一 表面ハ刷版ニシテ地紋ハ壓版トス

一 大サハ彩欄ヲ限トス

一 中央ニハ菊ノ御紋ヲ記ス

一 上ニ九ツノ星ヲ記ス是日本九道ニ象ル

一 星中ニハ大日本帝國政府紙幣ノ文字ヲ記ス

一 右ニハ 天皇陛下ノ聖像ヲ置ク為ニ餘白ヲ存

セリ而シテ其周囲ハ九道ヲ以テ飾ル

一 左ニ大藏卿ノ官印ヲ置キ其傍ニ出納局長ノ官印

ヲ記ス而シテ下ノ畫紋ノ中心ニ贋造者ヲ罰スルノ

国法ヲ記ス

一 番号ノ位置ハ二重ニシテ記号ト番号トヲ記シ堅

若クハ横ニ裂ケハ記号ト番号トヲ存ス

一四隅ニ金額ノ数字ヲ記ス是ハ大数疊子タル紙幣ヲ検査スルニ易カラシムルヲ要ス

一裡ノ畫紋ハ壓版ニメ敢テ緻密ナル模様ニ非ス是ハ紙質ヲ能ク辨知シ易カラシムルヲ要スルカ為ナリ

一中央ニ球形ヲ置キ中ニ大藏省ノ文字ヲ記シ其左右ニ日本文及洋文ニテ價ヲ記シ周圍ニハ英文ニテ日本帝國紙幣ノ文字ヲ表記ス

一断截ニハ記録局長ノ割印ヲ記ス則チ半ハ紙幣上ニ残り半ハ記録ニ存ス